

第7回 感染症アドバンスト・サマースクールを終了して

2019年8月2～3日品川プリンスホテルに於いて全国から応募いただいた43名の医師が参加し第7回感染症アドバンスト・サマースクールが行われました。「リサーチマインド」をキーワードとして、「症例の中の疑問点を探求する心」を重視しながら、2日間にわたり熱い議論が展開されました。

館田一博理事長のご挨拶に続き、四柳 宏先生より「感染症専門医認定制度」の現状と今後の方向性についてお話し頂きました。続いて、ワークショップ、症例検討会を行いました。今年は特にレアな感染症もあり、さすがアドバンスという内容でした。もちろんこれまで通りに、アンサーパッドを用いてインターアクティブにも参加でき、最終日には優秀賞、最優秀賞の発表がありました。

特別講演では「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)に関する最近の話題」と題して愛媛大学の安川正貴先生にご講演頂きました。安川先生は、本サマースクール創始者のお一人であり、本スクールを始めた経緯にも触れていただきました。SFTSは我が国での死亡率も25-30%と高く、極めて重篤な疾患です。解決すべき課題として、重症化、予後不良因子は、病態、発症機構、感染細胞は、治療法の確立、を挙げていただきました。これらのことを解明していくことの重要性を認識できました。

基調講演では、国立国際医療研究センターの忽那賢志先生に「海外帰国者の発熱アプローチ」と題して、様々な輸入感染症の症例を提示していただきました。さらには海外帰国者でも、それとは関係ない発熱疾患が多々あることを学びました。

以上の様にそれぞれのプログラムが充実しており、ご参加頂いた先生方からも勉強になった、でも今年は難しかった、来年もまた参加したいなどの意見を多数いただきました。これも2日間にわたりご協力いただいた委員の先生方、準備をしてくださった学会事務局のおかげであると思っております。心より感謝申し上げます。来年は東京オリンピックの関係で日程が少し遅くなり、2020年8月28～29日に品川プリンスホテルで行います。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

2019年8月5日

一般社団法人日本感染症学会
専門医育成・教育部会長
山本善裕



感染症アドバンスト・サマースクールの目指す方向性

今年も8月の第1週に感染症アドバンスト・サマースクールが開催されました。本企画は日本感染症学会が7年前から行っている感染症サマースクールの上級編という形で昨年より新しくスタートした教育プログラムです。本スクールの特徴は、日本感染症学会で中心的に活躍している医師がテュータとなり、稀な症例から難治例まで徹底的な討論を行うことです。時にはガイドラインにも載っていない治療法をエキスパート・オピニオンとして議論していくことが本スクールの特徴になります。

感染症アドバンスト・サマースクールの主な目的は、①次世代の感染症医、感染症専門医の育成、②リサーチマインドの醸成、③感染症を専門とする医師のネットワーク形成、です。特にリサーチマインドをもった感染症医の育成は重要です。近年はガイドラインが次々に発表され診療・医療の標準化が急速に進んでいます。しかし一方で、感染症専門医までもがガイドラインで思考が停止してしまうという弊害が生じていることも事実のようです。本スクールでは、ガイドラインを検証しながらガイドラインを変えるエビデンスを創りだせる感染症医の育成を目標としています。

今回の特別講演では、愛媛大学の安川正貴先生に重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の最近の話題に関してご講演いただきました。10年前までは存在そのものが知られていなかった感染症が、ペットや動物を介して私たちの身近なところで伝播している可能性が報告されました。と同時に、私たちの周りには原因の分かっていない感染症が多数存在していることを考えることの重要性をお示しいただいたように思います。8年前だったでしょうか、安川先生が感染症学会の理事でいらっしゃったときです。夏に泊りがけで感染症を勉強する機会を設けてはどうかという話になり、本サマースクールがスタートしたことが懐かしく思い出されます。その当時、まさか安川先生がSFTSの研究を行うとは、私どもはもちろん、ご本人も想像していなかったのではないのでしょうか。その後、ご自身で経験されたSFTS症の1例をきっかけに、臨床と基礎の視点から研究を展開されている安川先生は、まさに感染症アドバンスト・サマースクールのロールモデルです。

今年の感染症専門医の受験者数は約100名と聞いています。感染症専門医数もようやく1,500名を超える状況になりましたが、まだまだ求められる数には達していません。日本感染症学会としては、感染症アドバンスト・サマースクール、感染症ベーシックスクールなどの教育活動を通して、次世代・次々世代の感染症医の育成を続けていきたいと思っています。最後になりましたが、大変お忙しいところ第7回感染症アドバンスト・サマースクールを中心に準備してくださいました山本善裕先生および感染症学会専門医・教育部会の委員の先生方に改めてお礼を申し上げます。

2019年 8月

一般社団法人日本感染症学会 理事長
館田一博

感染症アドバンスト・サマースクール 2019 プログラム

会期：令和元年 8 月 2 日（金）～3 日（土）

会場：品川プリンスホテル メインタワー32 階「アクアマリン 32」

8 月 2 日（金）

12：25～12：30 Opening remarks

舘田 一博（一般社団法人日本感染症学会理事長、東邦大学）

12：30～12：50 感染症専門医認定制度について

四柳 宏（感染症専門医制度審議会委員長、東京大学医科学研究所）

12：50～13：10 Ice Break（グループ自己紹介）

司会：山本 善裕（感染症専門医育成・教育部会委員長、富山大学）

13：10～14：30 ワークショップ 1 HIV 感染症・抗酸菌感染症

司会：千酌 浩樹（鳥取大学）、東 桃代（徳島大学）

Lecture：塚田 訓久（国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター）

症例検討およびディスカッション

演者：北浦 剛（鳥取大学）

演者：吉田 志緒美（独立行政法人国立病院機構近畿中央呼吸器センター）

14：40～16：40 症例検討会およびグループディスカッション

司会：細川直登（亀田総合病院）、伊藤嘉規（名古屋大学）

演者：村中絵美里（亀田総合病院）

演者：手塚 宜行（名古屋大学医学部附属病院）

Tutor：感染症専門医育成・教育部会委員

16：55～17：45 特別講演「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する最近の話題」

司会：舘田 一博（東邦大学）

演者：安川 正貴（愛媛大学）

17：50～19：10 ワークショップ 2 真菌感染症

司会：中村 茂樹（東京医科大学）、泉川 公一（長崎大学）

Lecture：森 毅彦（慶應義塾大学病院）

症例検討およびディスカッション

演者：田中 健之（長崎大学病院）

演者：湯田淳一郎（国立がん研究センター東病院）

19：20～

意見交換会

8 月 3 日（土）

8：50～10：10 ワークショップ 3 外科感染症

司会：大毛 宏喜（広島大学）、重村 克巳（神戸大学）

Lecture：戸田良太郎（広島大学）

症例検討およびディスカッション

演者：北川 浩樹（広島大学）

演者：安福 富彦（神鋼記念病院）

10：20～11：10 基調講演「海外帰国者の発熱へのアプローチ」

司会：四柳 宏（東京大学医科学研究所）

演者：忽那 賢志（国立国際医療研究センター）

11：10～11：40 Closing remarks 山本 善裕（感染症専門医育成・教育部会委員長、富山大学）

感染症サマースクール 2019 優秀賞発表

修了証授与

参加者:43 名

最優秀賞:青木一晃(京都大学病院)

優 秀 賞:稲田 誠(沖縄県立宮古病院)
土居 歩(鳥取生協病院)